

常不輕菩薩の生き方に切り替えよう

【3月4月度の御金言】建長五年四月二十八日、安房国東条郷清澄寺道善の房の持仏堂の南面にして、浄円房と申す者並びに少々の大衆にこれを申しはじめて、其の後二十余年が間退転なく申す。

【清澄寺大衆中】(全集 894 頁)

法華講信条

- 1, 謗法嚴戒の信仰を貫こう。(信心)
- 1, 行学絶へなば仏法はあるべからず。(行学)
- 1, ただ一言でも妙法を伝える勇気を持とう。(破邪顕正)
- 1, どんなことがあっても憶持不忘の信心を貫こう。
- 1, 現世利益絶対否定の信心をしよう。(示教利喜)
- 1, 成仏大願、菩提心堅固の精進をしよう。
- 1, 御題目を唱える為にこそ生まれてきた自覚を持とう。
- 1, 噂に流されない、人に媚びへつらわない自立した信心をしよう。
- 1, 妙法聞法の縁を大切に求道の信心をしよう。

1991年2月13日掲揚

☆ただ一言も妙法を伝える勇気を持とう。(破邪顕正)

天台大師の法華文句巻 10 上に「本と未だ善有らざれば、不輕は大を以て而して強いて之を毒す(南無妙法蓮華經の法を信じる事が出来ない人に信じる事が出来る人の方から積極的に南無妙法蓮華經の話、文章を伝え南無妙法蓮華經に縁をしてもらう事)」とあり、これを【而強毒之(にござどくし)】といいます。一切衆生平等成仏の法である、南無妙法蓮華經の法を信じない衆生に強いて説き伝え仏縁に触れさせる事を言います。折伏教化、【毒鼓の縁(どつくのえん)】と同じであります。御寺の本堂で唱題する時に、太鼓を叩きます。これは住職が一人で勤行する時も叩きます。という事は、沢山の御信者さんの唱題の唱和がバラバラなったらいけない為のリズムとか、威勢よくする為に叩いているのではなく、近隣の人々に、ここに南無妙法蓮華經の法を信心修行する者がいますよ。「信ぜん人は仏になるべし、謗せん者は毒鼓の縁となって仏になるべし」(法華初心成仏鈔全 552 p) 南無妙法蓮華經の縁となる様に叩いているのであります。しかしそれでは、選挙の候補者宣伝カーの様な車に大音量のスピーカーを付けて南無妙法蓮華經、南無妙法蓮華經、南無妙法蓮華經と世界中、年がら年中怒鳴り廻れば良いじゃないかとなりますが、それはだだの騒音、迷惑であって【而強毒之】【毒鼓の縁】とは違うのであります。スーパーマーケットに買い物に行き、会計レジで、「あなた、何宗の信心ですか？南無妙法蓮華經の信心修行をしないと成仏出来ませんよ。」というのは言葉の暴力であります。時と場所と相手の機根を考えない行動は、折伏では無いので有ります。創価学会の様な、素直に入信すれば、病気は治り、悩みは無くなり、会社でも出世して給料も上がり、子供は元気で頭が良く、他人からうらやましがられる人間に成長し、絶大な功德が有る。やらなければ罰が当たるぞ、ここから家に帰るまでに事故にあつて死ぬかもしれんぞ。等々の脅しすかしも【而強毒之】【毒鼓の縁】とはまったく違うのであります。大声を出し脅す事無く、

おだやかに、適切な時と場所場面流れを選んで、その人の機根に合う様に、やさしく冷静で理論的に、相手に他の信仰の矛盾疑問を感じさせ、心を開き、相手の方から質問してくれるように、根気よくを何度でも、声を掛ける事こそが折伏、妙法の縁なのであります。子供や孫、大切な人に、唯一無二の成仏出来る永遠常住の生命の指針となる妙法を信心修行して貰いたい。成仏出来ない信心修行にはまらないで貰いたい。その思いを伝えるのが折伏であります。子供や孫や大切な人に嫌われたくないから、信心の話はしないで黙っておくというのは、乃至法界平等利益の南無妙法蓮華經の信仰者では無いという事になります。南無妙法蓮華經を信じ唱え一言でも伝える事は、誰もが心の中の小さな勇気をひとしく絞り出さなければなりません。絞らなくてもザーザー漏れ流れ出している人は一人もいません。